

NPO法人・越谷市郷土研究会

第465回史跡めぐり

平成28年1月4日（月）

『**したや** **下谷七福神めぐり**』

集合時間と集合場所 8:30 越谷駅東口

コース 越谷駅(8:46 急行浅草行) - 北千住駅(乗り換え) - 三ノ輪駅(9:14) -
一三ノ輪橋跡^み - 目黒不動^ま - 寿永寺(布袋尊) - 樋口一葉旧居跡^{とび} - 飛不動尊(恵比寿)
一浅草のおとり様 - 朝日弁財天(弁財天) - 小野照崎神社(富士塚・庚申塚) - 法昌寺
(毘沙門天) - 英信寺(大黒天) - 入谷鬼子母神(福祿寿) - 元三島神社(寿老人・解散式)
一鷺谷駅(12:00 自由解散)

①鷺谷 - 山手・日暮里 - 常磐線・北千住 ②鷺谷 - 山手・西日暮里 - 千代田線・北千住
③鷺谷 - 山手外回り・上野 - 日比谷線・北千住 越谷迄の運賃①ICで473円、他は606円

1. 大関横丁・・・ここ箕輪(三ノ輪)に大名の大関家の下屋敷があったことが由来。
昭和通りと明治通りの交差点を「大関横丁交差点」と呼ばれる。
 2. 昭和通りと明治通り・・・それぞれ、昭和にできた道路、明治神宮を通る道路。
昭和通りとは、関東大震災後の復興事業の一環として、昭和初期にできた幅広い道路。
明治通りの由来は、明治神宮のそばを通っているからと思われる。明治ではなく昭和にできた道路である。
 3. 三ノ輪橋跡・・・音無川に架かっていた橋、ここまでが江戸町奉行の支配範囲。
「かつて石神井用水(音無川)と日光街道が交叉する地点に架かっていた。江戸時代には
市中と市外の境界に位置して、現在の台東区域と荒川区域を結んでいた。昭和初期に
石神井用水は暗渠となったため三ノ輪橋も撤去されて、現在は都電荒川線の停留所に
その名が残る。」(三ノ輪橋跡の説明版より)
- ※小説などでみられる「市中」の用語が江戸時代に使われていたかは不明。「府内」とする
のがよい。上記の江戸の範囲の説明は墨引き線による。朱引き線は千住大橋までで、朱引
き線の範囲内が江戸の町の範囲とされている。

4. 目黄不動・・・目白不動、目黒不動などの江戸五色不動の一つ。
境内に「目黄不動尊 永久寺」と刻まれた石碑がある。また、板碑も二基みられる。
五色不動とは、目白、目赤、目黒、目青、目黄の各不動尊をいう。

5. 寿永寺(布袋尊)

江戸時代初期、寛永七年(一六三〇)創建の歴史のある寺院。



6. 一葉記念館・・・樋口一葉の記念館

「一葉記念館は昭和36年に我が国初の女性作家の単独資料館として開設されました。その後40年余りを経て老朽化が進み、また、樋口一葉が「新五千円札の肖像」に採用されたことを機に、平成18年11月1日にリニューアルオープンしました。当館には、一葉自筆の「たけくらべ」草稿、小説の師・半井桃水との書簡、下谷龍泉寺町に小店を開いた時の仕入帳など、貴重な資料を展示しています。」



「樋口一葉は、明治26年7月～翌年5月までの約9ヶ月半、母・妹の3人で下谷龍泉寺町(現・台東区竜泉)に住んでいました。一葉はこの地で荒物・駄菓子屋を営み、生活苦と闘いながら、名作「たけくらべ」の題材を得ました。」(以上、説明版より)

7. 一葉女史たけくらべ記念碑・・・この辺り(竜泉寺界限)が「たけくらべ」の舞台。
この記念碑は、一葉記念館の道路反対側の一葉記念公園に設置されている。

一葉女史たけくらべ記念碑

近代文学不朽の名作「たけくらべ」は樋口一葉在住当時の竜泉寺町(りゅうせんじまち)を中心に吉原かいわいが舞台となった。これを記念して昭和26年十一月、地元一葉記念公園協賛会によって建てられ、その後台東区に移管された。碑文は女史の旧友歌人佐佐木信綱博士作並びに書による次の歌二首が刻まれている。 台東区教育委員会

紫の 古りし光に たぐへつべし
君こゝに 住みてそめし 筆のあや
一葉女史たけくらべ記念碑
そのかみの 美登利信如らも この園に
来あそぶらむか 月しろき夜を
昭和廿六年十一月

佐佐木 信綱

8. 樋口一葉旧居跡・・・樋口一葉が住んでいて「たけくらべ」を執筆したところ。

樋口一葉旧居跡

樋口一葉は明治二十六年七月二十日、本郷菊坂町より下谷竜泉寺三百六十八番地に移り住み、この界隈を背景にして不朽の名作「たけくらべ」や「わかれ道」の題材を得た。この碑の位置は、一葉宅の左隣り酒屋の跡にて、一葉と同番地の西端に近く碑より東方六メートルが旧居に当る。なお、一葉はこのあたりを「鶉なくうすら 聲もきこえて花すゝき まねく野末の夕べさびしも」と和歌に詠んでいる。

昭和五十一年十一月二十三日（一葉没後八十年） 台東区教育委員会

9. 飛不動尊（恵比寿）・・・本尊の不動様が吉野から江戸のこの地に飛んできた。

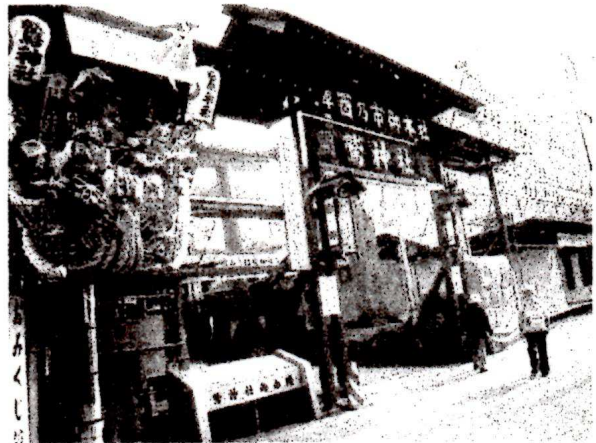
昔、ここの住職が本尊を持って大和国（奈良県）吉野のおおみわきん大峰山に修行に行ったところ、本尊が大峰山から一夜にして江戸のこの地に飛んで戻ってきたという逸話がある。

昭和50年（1975）頃、住職が「飛行護（まもり）」を作ったところ飛行機に乗る人たちの間で人気となっていく。特に昭和60年の日航機事故の時は注目され、航空安全の守護神として有名になった。

10. 鶯（おおとり）神社・・・浅草の「おとりさま」は、十一月の「酉とりの市いち」で有名。

近くに遊郭のよしわら吉原があった関係で江戸時代中期以降、非常に賑わった。

酉の市の発祥は、もともとは現在の足立区花畑の鶯宿（わしじゅく）と呼ばれる所にある大鶯神社（おおとりじんじゃ）の酉の市と言われている。



11. 朝日弁財天（弁財天）・・・不忍池の弁財天を夕日弁財天に対して朝日弁財天と呼ぶ。

西にある不忍の池の弁財天を夕日弁財天といい、東にあるここを朝日弁財天と呼んだ。朝日と夕日の弁財天は同時期の創建という。江戸時代は広大な池に囲まれていたが、関東大震災で、朝日弁財天の池は焼失した廃材や残土の捨て場となった。現在は広大な池は失われている。

12. 小野照崎神社・・・ここに富士塚と庚申塚がある。

平安時代の百人一首の歌人として有名な小野篁（おののたかむら）を祀る神社である。現在の神主は小野篁の子孫だといわれている。

さまざまな庚申塔を祀った小山「庚申塚」や富士山をかたどった「富士塚」がみられる。富士塚とは、富士山を神体とあがめた信者たちが、その形をまねて岩土を積み上げたいわば

ミニ富士である。江戸では江戸八百八町、どこにでもお富士さんの講があったとの俗説があるくらい、江戸及びその近郊では「浅間信仰」と呼ばれる富士山の信仰が流行し、富士塚もよく見られた。

下谷坂本の富士塚

台東区下谷三丁目十三番十四号

この塚は模造の富士山で、文政十一年（一八二八）の築造と考えられている。「武江年表」同年の項に、「下谷小野照崎の社地へ、医師を畳みて富士山を築く」とある。境内の「富士山建設之誌碑」によると、坂本の住人で東講先達の山本善光が、入谷の住人で東講講元の大坂屋甚助と協議して築造し、富士山浅間神社の祭神を勧請したという。

東講は富士山信仰の集団、いわゆる富士講の一。富士山信仰は室町末期頃に起こり、江戸時代中期には非常に盛んになり、江戸をはじめとして富士講があちこちで結成された。それにともない、模造富士も多数築かれ、江戸とその近郊の富士塚は五十有余を数えるに至った。しかし、いまに伝わる塚は少ない。

ここの富士塚は高さ約五メートル、直径約十六メートル。塚は富士の熔岩でおおわれ、東北側一部が欠損しているものの、原形がよく保存されている。原形保存状態が良好な塚は東京に少ないので、この塚は貴重である。昭和五十四年五月二十一日、国の重要有形民俗文化財に指定された。

平成六年三月

台東区教育委員会

13. ^{ほうしやうじ}法昌寺（毘沙門天）・・・ここに、たこ八郎の「蛸地蔵」がある。

「たっこで一す」の言葉で知られたコメディアンで元プロボクサーの「たこ八郎」の「蛸地蔵」がある。蛸地蔵には、たこ八郎の座右の銘である「めいわくかけてありがとう。たこ八郎」と刻まれている。

14. ^{きいしんじ}英信寺（大黒天）・・・三つの顔を持つ三面大黒天を祀る。

正面の顔が大黒天、向かって右の顔が弁財天、左の顔が毘沙門天の三面大黒天が安置されている。

15. ^{かなすぎ}金杉通り・・・江戸時代の奥州街道裏道。

金杉通りは、かつて都電が通り、通称「都電通り」、江戸時代は上野寛永寺方面から来る「奥州街道裏道」と呼ばれた。下町の様子を醸し出す土蔵造りの商家が建ち並んだ街並みであった。

北に進み、三ノ輪の先で千住大橋手前で右から来る奥州街道（日光街道）と合流する。日光方面に通じるという意味で「奥州街道裏道」は、地元では「日光街道」とも呼ぶ。



浅草寺を通る「日光街道」は、古くから「奥州街道」とも呼ばれる。参考までのそのコースは以下の通りである。

日本橋より室町三丁目南交差点より東に向かい、神田川に架かる浅草橋を渡り、浅草寺の雷門を通過し、東参道交差点、そして言問橋の西側より南千住駅方面に進み、小塚原（こづかつぱら）刑場跡の「骨（こつ）通り」を経て千住大橋に至った。

16. 入谷の鬼子母神（福祿寿）・・・「恐れ入谷の鬼子母神」（意：恐れ入りやす鬼子母神）。

入谷鬼子母神

台東区下谷一丁目十二番十六号 眞源寺内

入谷鬼子母神は、日蓮上人の尊像とともにここ眞源寺に祀られている。眞源寺は、万治二年（一六五九）日融上人により創建された。

鬼子母神は、鬼神般闍迦の妻で、インド仏教上の女神のひとりである。性質凶暴で、子どもを奪い取っては食べてしまう悪神であった。釈迦は鬼子母神の末子を隠し、子を失う悲しみを実感させ、改心させたという。以後、「小児の神」として児女を守る善神となり、安産・子育ての守護神として信仰されるようになった。

入谷鬼子母神では、子育ての善神になったという由来からツノのない鬼の字を使っている。

また、七月上旬、境内及び門前の道路沿いには「朝顔市」で賑わう。入谷名物となったのは明治に入ってからで、十数軒の植木屋が朝顔を造り観賞させたのがはじまりといわれている。当時この地は、入谷田圃といわれ、朝顔や蓮の栽培に適していた。

大正初期、市街化により朝顔市は途絶えたが、昭和二十五年復活。以後、下町情緒豊かな初夏の行事として親しまれている。

平成六年三月

台東区教育委員会

17. 元三島神社（寿老人）・・・名前の由来は、瀬戸内海の「大三島」と「三島水軍」。

伊弉諾尊（いざなぎのみこと）の子で、山をつかさどる神である大山祇神（おおやまつみのかみ）を祀る神社。本社は四国の大三島の大山祇神社。元三島神社の「三島」は瀬戸内海の「三島水軍」をさす。

18. 鶯谷駅・・・「鶯谷」の由来は、江戸時代の鶯の名所、根岸の里。駅の鶯鳴き声放送江戸時代に京都の皇族が寛永寺の住職としてやってきていたが、その一人が元禄年間に「江戸の鶯はなまっている」といって当時の文化人・尾形乾山に京都から鶯を運ばせて、上野の山の崖下の北東に広がるこの根岸の里（下町の別荘地）に鶯を放して、鶯の名所になったことに由来する。「鶯谷」という地名はない。

根岸の里は、江戸時代、田圃が広がっていて静かな自然が残り、文人墨客が住みついたり、訪れたりする風雅な土地として知られていた。明治の正岡子規も住んでいた。



別の宇賀弁財天
から掲載

うがじん
宇賀神

注目!



宇賀弁財天

武器を持つ 8 本の腕
頭上には鳥居と宇賀神

コース(3.5キロメートル)

- 越谷駅—北千住駅—三ノ輪駅—三ノ輪橋跡—^{めき}目黄不動—
寿永寺 ^① (布袋尊)—樋口—葉旧居跡—^{とび}飛不動尊 ^② (恵比寿)
—^{おとり}鷺神社 (浅草のおとり様)—朝日弁財天 ^③ (弁財天)—
小野照崎神社 (富士塚・庚申塚)—^{ほうしょうじ}法昌寺 (毘沙門天) ^④
—^{えいしんじ}英信寺 (大黒天) ^⑤—入谷の^{いりや}鬼子母神 (福祿寿) ^⑥
—^{もとみしま}元三島神社 (寿老人・解散式) ^⑦—鷺谷駅 (自由解散)

